

北海道国有林におけるエゾシカ 森林被害対策の取り組み

北海道ではエゾシカによる、農林業被害額は46億円(平成26年度)になり、森林でも樹皮を食べられて樹木が枯れるなどの影響が出ています。

エゾシカによる被害を減らすためには、国有林と民有林が連携を図り、**一体的に取り組み**ことが重要です。北海道森林管理局ではエゾシカ対策として様々な取り組みを行っています。

エゾシカ被害対策の推進
平成26年度より、北海道森林管理局では、国有林で地域と連携した捕獲を実施しています。

主な捕獲手法として、**囲い**の中に餌を置きエゾシカをおびきよせ、生きたまま捕獲する**囲いワナ**、林道を除雪した上で、餌を置き、餌を食べに現れたところを猟銃により捕獲する**モバイルリング**(移動と間引きの英語を合わせた造語)などがあります。



囲いワナで捕獲されたエゾシカ
(根釧東部署)



モバイルリングによる車上からの狙撃
(根釧西部署)

いずれも降雪により餌が不足する冬季に実施しています。捕獲頭数は、自治体など地域関係者との連携による体制の整備が図られたこと、エゾシカの動態が把握できたことにより、平成26年度の捕獲実績²⁹⁹ 930頭から、平成27年度は⁹³⁰ 993頭に、上昇しています。

実施年度	札幌市	旭川市	北見市	八雲町	帯広市	釧路市	計(人)
H25	1,338	439	387	149	651	537	3,501
H26	1,482	533	493	152	603	510	3,773
H27	1,493	590	486	157	615	495	3,836

合同説明会申請者の推移



合同説明会札幌会場(平成27年9月)

また、狩猟者の利便性の向上のため北海道及び北海道猟友会との共催で、全道六箇所で一括入林承認合同説明会を開催しています(平成27年度の申請者は3,836名)。



樹皮を食べるエゾシカ

平成28年度はこれまでの対策に加えて、エゾシカ対策の技術向上に向けて、森林管理と一体的に行う捕獲手法（移動式小型囲いワナと誘引狙撃を組み合わせて、機動的な捕獲を行う）の検討と、捕獲個体の食肉利用などの有効活用推進に取り組みます。



生体捕獲したエゾシカの搬出（赤谷署）



小型囲いワナによる捕獲実証

エゾシカ食害等の影響を全職員で把握します

エゾシカが天然林へ与える影響を詳細に把握するため、全道規模での実態調査を、平成21年度より進めています。その結果、樹皮剥ぎによる樹木の枯死などといった被害が、北海道東部地域で深刻化するとともに全道的に拡大していることが明らかになりました。

一方、これら詳細な調査を補完する目的で、全道の森林管理署の森林官などが日常業務の中でエゾシカによる影響を把握する、「チェックシートを用いた簡易影響調査」を平成22年度から実施しています。

昨年度までの6年間で、約2万5千箇所を調査を実施し、有識者からも高い評価を頂いています。このチェックシートの様式は、平成26年度より民有林の天然林でも利用されています。

共通様式であるチェックシートを活用して国有林と民有林、それぞれで調査した結果をもとに、北海道（道立総合研究機構）と共同して被害マップを作成し、毎年それぞれのホームページで公表しています。

これらは、地域との連携による対策・捕獲計画の基礎データとしての活用や、誘引による捕獲（囲いワナ、モバイルカリング等）を検討する際の資料にもなっています。もちろん、調査結果が信頼される内容であるためには実際に痕跡を確認する職員の目が確かでないといけません。

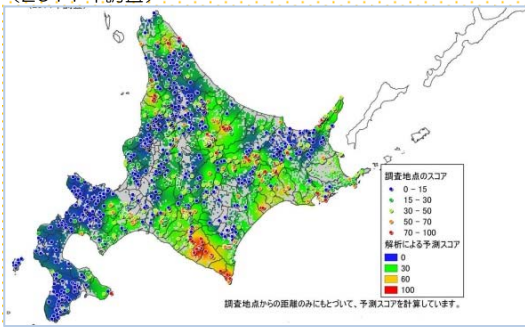
そのため、職員や自治体関係者が集まり、現場でエゾシカの痕跡を把握するための勉強会を開催

し、森林技術者としての目を磨いています。今後もエゾシカによる森林への深刻な影響が出る前に、状況を把握できるように、がんばっていきます。

（保全課）

※エゾシカチェックシートの内容、調査結果については北海道森林管理局ホームページ内のエゾシカ対策のページに掲載していますので、そちらもご覧ください。

エゾシカ影響調査・簡易チェックシートによる天然林への影響評価（2014年調査）



勉強会の様子（網走西部署）